

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー機関誌

はなしあい

題字 元総理 片山哲 筆

2024年11・12・25年1月号

編集発行人

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー

代表理事 中村 信博

発行所

日本クリスチャン・アカデミー

京都市左京区一乗寺竹ノ内町2-3

075 (711) 2147

NIPPON CHRISTIAN ACADEMY

第636号

国際社会が力を合わせ取り組むことを誓約し「我々の世界を変革する一持続可能な開発のためのアジェンダ2030」(通称「SDGs」)が国連本部で193の加盟国により採択されて、まもなく一〇年の年月を刻む。

世界を包むさまざまな対立、分断、抗争、これらの現実立ち向かい、持続可能な地球社会を再創造するため、17のゴール(飢餓・栄養、水、衛生、教育、エネルギー、産業、成長、雇用、都市計画など)および189のターゲットから構成されている。「誰も置き去りにしない」がスローガン。目標達成年まであと5年余りと迫ってきた。

持続可能な開発目標SDGsにわれわれの関心が向けられている間にもコロナウイルスは驚くべきスピードでこの地球社会を飲み込んだ。人間の社会をあざ笑うが如くに襲いかかってきた。ヴィヴィアンヌ・リーチ作『コロナ・ウイルスから人類への手紙』の冒頭には次の一文がある。「地球はささやいたけれど、あなたには聞こえなかった。地球は話したけれど、あなたは聞かなかった。地球は叫んだけれど、あなたは聞くこと拒んだ」(教団神奈川教区寿地区活動委員会ニュースから)台風に洪水、猛暑、早ばつ、そして森林火災など、地球は悲鳴を上げ、シグナルを送り続けている。そんな中、温暖化や環境破壊で住処を追われた野生動物(病原体を含む)が人間の生活空間に逆襲してきた。これがコロナウイルス感染症の世界的拡大(パンデミック)の実相だ。

つながる地域社会・地球社会を



賛助会員

田中 義信

「地球はささやいたけれど、あなたには聞こえなかった。地球は話したけれど、あなたは聞かなかった。地球は叫んだけれど、あなたは聞くこと拒んだ」(教団神奈川教区寿地区活動委員会ニュースから)台風に洪水、猛暑、早ばつ、そして森林火災など、地球は悲鳴を上げ、シグナルを送り続けている。そんな中、温暖化や環境破壊で住処を追われた野生動物(病原体を含む)が人間の生活空間に逆襲してきた。これがコロナウイルス感染症の世界的拡大(パンデミック)の実相だ。

そうだとすると、ひるがえって、私たちの社会のあり方こそ問題のルーツがあるのではないか。この地球を支配ではなく、共存する一存在にすぎない人間はどのように生態系を共に保持していくのか、これが私たちに今投げかけられている大きな問いではないか?

エキユメニカルな働きを通して受け止めねばならない課題ばかり。日本における取り組みに関心をもつ私たちは、これを機に翌2014年2月京都に参集し(参加者58人)、世界総会からの問題提起を共有するとともに、日本におけるエキユメニカル運動の展開をめぐって議論を深めた。

つながる地域社会・地球社会を

トできる私たち(また日本のキリスト教会)でありたい。

しているのだろうか。SDGsが求める公正、平和なグローバル社会の実現にどう参加しているのか、できるのか。

ところで、この国におけるキリスト教運動のさらなる内実化に関心が強まっていた頃折から第10回世界教会協議会(WCC)総会が韓国・釜山で開催された(2013年10月)。

国を越え、時代を超えて、アカデミーが追い求める普遍的なミッション「いのち・正義・平和が尊ばれる社会」の創造は今や国連機関をはじめ世界の祈りとなっている。その理想実現にいつそうコミット

主題は「いのちの神よ、わたしたちを正義と平和に導いてください」であった。多くの課題や指針が世界に向けて発信された。それらはいずれも今日の時代における

*クリスチャン・アカデミーにはこの記念集会をはじめ協議会や総会会場として関西セミナーハウスの提供、さらにはスタッフによる各種の事務局業務の支援協力もいただいています。記して会員各位の感謝の念を伝えたい。(E-net 副会長)

関東活動センター

●2024年度 今日的課題Ⅰ

「LGBTQ+と教会―壁を造らない共同体をめざして」

講師 日本キリスト教団代々木教会牧師 中村 吉基さん
宗教とLGBTネットワーク代表

2024年6月～12月 第2火曜（8月休会）

会場 関東活動センター会議室

◇参加者寄稿

変わることより気づくこと

戸村 滋見

ろうか、そんな疑問を抱きながら、私はこの講座に参加しました。

私がこの講座に参加したきっかけは、半年ほど前に、同居している娘からLGBTQ+に関する本を渡されたことです。恐らく家で日常的に交わす会話の中に、娘は私のLGBTQ+に対する無理解と差別意識を感じていたのだと思います。私は、何で？と思いつつも、ともかくその本を読みました。そしてその時感じたことは、同性愛のことを知識として理解できても、感覚的に理解できないということでした。私には本当にLGBTQ+のことを理解できるのだ



中村 吉基 講師

と。私が同性愛を感覚的に理解できるのではなく、私がLGBTQ+の方の人権を認められるかが重要だったのです。そして、この世に人権を認めない宗教があるとすれば、そ

の宗教はどこがおかしいとも思うのです。聖書に同性愛が罪だと書いてあると言うのなら、聖書が書かれた時代的制約を超えて、科学と信仰を重んじながら聖書に真摯に向き合い直さなければならぬと思います。

LGBTQ+の問題は、自分が感覚的に理解しよう、変わろうと努力することではなく、L

GBTQ+の方々の置かれた実態を知ること、そしてこれが人権の問題であることに気づくことにかかっていると思います。そしてそのことに気づいた私たちが、繰り返しLGBTQ+への理解について啓発し続けて行くことが必要であると思えました。正に目から鱗の講座でした。

（東中野教会教会員）

●2024年度 聖書を読む講座Ⅰ（共催：早稲田奉仕園）

「LGBTQ+とキリスト教―性と生の正義に向けての聖書の読みなおし」

講師 聖書学者 山口 里子さん
2024年4月～25年2月 第2火曜（8月休会）
Zoomによるオンライン

◇参加者寄稿

講座に参加して

西間木 公孝

2024年度の「聖書講座」は「LGBTQ+とキリスト教―性と生の正義に向けての聖書の読み直し」です。山口里子さんの著書『虹は私たちの間に―性と生の正義に向けて』を

テキストに聖書の読み直しを行い、LGBTQ+とキリスト教を考え、話し合っています。実を言うと『虹は私たちの間に―性と生の正義に向けて』が発売されて間もなく、本を購入し、読み始めましたが、何度も挫折。読み通すことができない中、クリスチャン・アカ

デミーは、著者の山口里子さんを講師にこの本を通じた学び合いが開催されていて、当時、島根県に住んでいた私はいいなという思いで眺めていました。遠方に住む者にとって参



山口 里子 講師

加できなかったからです。それが、今回、クリスチャン・アカデミーはオンラインで開催し、北海道に住む私も参加できるようになりました。しかも仕事で参加できなかったときは、後日、録画で見ることができて、うれしいです。講座は、毎回『虹は私たちの間に―性と生の正義に向けて』を単元ごとに読みます。その後、山口里子さんの解説。それをめぐって、話し合いをします。この講座は、「信じない自由が守られない」と、信じる自由が守られない」を基本方針としていて、こうでなければならぬという縛りから解放され、自由に語り合いがなされます。ふだんあまり口にできない疑問を口にでき、そのことに真剣に向き合っている仲間たちがいます。聖書テキストの歴史をさかのぼっての解釈を通して、これまでの歴史の中で、改変されてきた聖書の言葉の本来の意味を探求します。そこには、「聖書によれば同性愛は罪」ということは全くなく、かえって神の創造の業はセクシャリティを含め、実に豊かで

多様であることを知らされま 直し、自分の信仰の基盤の再
す。根深い父権制社会、それに 構築を促されます。
染まったキリスト教をとらえ (日本基督教団新得教会)

関西セミナーハウス活動センター

●2024年度 修学院フォーラム「社会」第2回
「戦争の時代」にしないために
— 沖縄対話プロジェクトの経験から —

講師 前石波書店社長・元雑誌「世界」編集長 岡本 厚さん

2024年5月25日(土)
会場 関西セミナーハウスとZoomによるオンライン

シリーズ「戦争と平和」



岡本講師は最初に、2021年3月のデビッドソン・インド太平洋軍司令官の米上院証言及び2021年12月の安倍元首相の「台湾有事は日本有事、日米同盟有事」という発言を引用し、2022年ロシアのウクライナ侵攻が「今日のウクライナは明日の東アジアかもしれない」という危機を煽る言説が作られていることを指摘した。このことに対応して「台湾有事」を起させないための「沖縄対話プロジェクト」を沖縄で発足さ

せた。沖縄の強い危機感に向き合いながら、沖縄の人びとと台湾、大陸の人びとの直接の対話を試み、若い世代を含めて対話を繰り返した経験、その成果について説明した。岡本講師は、戦争の反対語は「平和」ではなく「対話」であると定義し、「対話」とは何かについて様々な角度から説明した。「対話」とは、お互いの意見を尊重し、「理解できない」と考えてきた相手のことを「理解しよう」とすること。相手にも自分を「理解してもらおう」とする試み、と述べた。ウクライナ戦争でもガザでの戦争でも、戦争を終わらせるのは「対話(交渉、協定)」以外にないことを強調した。さらに岡本講師は、県民の4人に1人が犠牲になった

沖縄戦(1945年3月~6月)からの教訓としての「命どう宝」という平和論について解説した。軍は民を守らないという史実に基づく、「命」よりも大切な「大義」や「正義」などはないとする平和論であった。戦争は通常「大義」や「正義」をかざして行われる。しかし、戦争をしてまで守るべき正義などないことを、沖縄の経験から学ぶことができるとした。岡本講師は最後に「理解できない」と思っている人たちの対話を広げて行くこと。例えば北朝鮮の人々、保守の政治家、自衛官や米兵、違う世代の人たち、海外から来た隣人たち、別の宗教団体の人たち、「許せない」と思う人々等々と、対話を進めることを提案した。また、一人一人と向き合い、一人一人に寄り添い、対話を続けたのがイエスの革命的なところではなかっただろうか」と結んだ。

アカデミー運動の1丁目1番地である「はなしあい」、「対話」についても理解を深める示唆に富んだ講演であった。第2部では講演内容に基づき、活発な議論が交わされた。豊かな学びと「はなしあい」の時となった。

御子のご降誕をお祝いし、
新年のご挨拶を申し上げます。

新しい年を迎えるにあたり、暴力と災害によってあらゆるいのちが犠牲になることなく、神によって創造された世界がより美しい調和を保つことができましようにと祈ります。そして、この祈りのために微力を尽くします。みなさまの上に、飼い葉桶にねむる幼子の平和と希望が豊かにとお祈りしています。



公益財団法人日本クリスチャン・アカデミー
代表理事 中村 信博

- | | | | |
|-----|-------|----|-----------------|
| 評議員 | 木原 活信 | 理事 | 榎本 栄次 |
| 〃 | 小原 克博 | 〃 | 戒能 信生 |
| 〃 | 原 牧人 | 〃 | 神崎 清一 |
| 〃 | 増田 琴 | 〃 | 神田 健次 |
| 〃 | 山本 俊正 | 〃 | 神保 正男 |
| 〃 | 横野 朝彦 | 〃 | 黒岩 裕二 |
| 〃 | 〃 | 〃 | 柳井 一朗 (五十音順) |

関東活動センター 関東運営委員長 浦上 充

関西セミナーハウス活動センター 所長代行 古賀 博

関西セミナーハウス活動センター 所長 小久保 正

〃 所長代理 神崎 清一

〃 〃 後宮 嗣

関西セミナーハウス 経営委員長 神崎 清一

〃 館長 森口 明洋

本部事務局 事務局長 神崎 清一

〃 〃 財団職員一同

・現在「はなしあい」は季刊であるため、少し早めのご挨拶をさせていただきます。



「パレスチナの平和をつくる」
 2024年度「開発教育セミナー」第2回
 講師 早稲田大学文学部教授 岡 真理さん
 2024年7月6日(土)〜7日(日)
 会場 関西セミナーハウス

ガザの被害が深刻化する現在、岡真理さんの話が聞きたいという各地からの参加者を迎え、セミナーを開催した。新聞記事を読み解く活動から始め、正確な情報や背景が報道されていないメディアの現状を確認した。岡さんは、イスラエルの攻撃はジェノサイドであり、病院の破壊は感染症の蔓延を生じさせ、ジャーナリストや高齢者への攻撃は隠ぺいとパレスチナ人の抵抗の支柱となる記憶の抹消を狙っていると詳細に語られた。

続いて、封鎖と占領下の人々の証言を各グループで読み、岡さんの話を通して理解を深めた。ヨハン・ガルトウングが提唱する「平和は構造的暴力がない状態」が紹介され、対極にあるガザとヨルダン川西岸地区の実態が語られた。西岸地区から留学のために来日し、研究者として働いているジュマーナさんも参加され、検問所で受けた嫌がらせや知人が受けた迫害などが語られ、その声は参加者に深く重く響いた。

翌日は、日本との関わりや解決のための市民の行動の記事を読み合い、解説を聞いた。日本政府は2014年イスラエルとの包括的パートナーシップを確認し、多くの大学で共同研究が始まり、東京五輪のセキュリティなどイスラエルの科学技術の実用化が進んでいる。一方、イスラエル国内では高校生が兵役拒否を表明し、各地でパレスチナ人、ユダヤ人の抵抗運動が続いている。南アフリカ共和国がICJ(国際司法裁判所)にイスラエルはアパルトヘイト国家だと訴え、ICJがジェノサイド防止命令を出した意義は大きい。自分がやるべきことを改めて考える機会となった。



2024年度修学院フォーラム「社会」第4回
 シリーズ「戦争と平和」
 「地雷ではなく、花を」
 報復ではなく、いのちの連鎖へ
 講師 カトリック名古屋教区 司教 松浦 悟郎さん
 2024年7月27日(土)
 会場 関西セミナーハウスとZoomによるオンライン

松浦講師は最初に『地雷ではなく花をください』という絵本の著者柳瀬房子さんの言葉を引用した。「今、地球上に1億1千万個の地雷が埋められ、1日に約70人が犠牲になっています。こんな恐ろしい兵器を取り除き、かわりに花を植えることができれば、どんなにすばらしいことでしょうか。」と。それから現在のガザやウクライナ戦争に言及し、人を殺すための武器にお金をかけるのではなく、世界の貧困や人間の安全保障のために何ができるのかを、共に考えてみたいと問題提起をした。

賛助会費・寄付金報告(1)

2024年7月1日~9月30日 (順不同・敬称略)

- ◆関東活動センター 賛助会費
 - 浦上 佳織
 - 全国教会婦人会連合
 - 只野 哲
 - 松井 直樹
 - 木原 諄二
- 寄付
 - 木原 諄二
 - 押切 稔
- 神学生プログラム寄付
 - 原 誠
 - 松下 起子
- ◆関西セミナーハウス 寄付
 - 柴田 賢司
 - 中村 信博
 - 神崎 清一
 - 林 律
 - 船坂 孝江
 - 武山 泰子
 - 八田 尚嘉

次頁に続く

間の「自然の傾向」から考える戦争と平和について解説した。戦争は人間の本性に接ぎ木されたようなものであり、なぜ戦争が起きるのかではなく、どうすれば戦争が起きなくなるかという問いが重要であるとされた。カントは平和が道徳的な理想からではなく、法の支配による社会の仕組みから生まれること。また、戦争を起ささない「しくみ」と平和を構築するためには、人間の「感情」、「考え方(価値観)」、「利害」に向き合うことが重要であるとされた。

さらに憲法が持つ「戦争を起さない力」に言及し、日本の現実から出発し、憲法の理想に近づけて行く平和構築の歩みが大切であることを指摘した。また、日本の知る権利、報道の自由(180ヶ国中70位※)が退行する傾向にあり危惧されるとした。

最後に教会を含め、他の宗教や市民と連携して「太くて短い運動」ではなく「細くて長い運動」を続けたいと述べた。発題講演後、「平和とは何か」、「平和の福音とは何か」などについて活発な質疑応答、意見交換がなされた。

※国際NGO「国境なき記者団」(本部パリ)2024年度「報道の自由度ランキング」

プログラム案内

◆関東活動センター

■2024 年度 聖書を読む講座 I (共催:早稲田奉仕園)

『LGBTQ+とキリスト教』『虹は私たちの間に 性と生の正義に向けて』を共に読む

講師:山口 里子さん(聖書学者) 日時:4月~2025年2月、第2火曜(8月休会)18:30~20:00

参加費:全10回8,000円、学生4,000円 方法:Zoomによるオンライン講座

■2024 年度 宗教対話 I (共催:早稲田奉仕園)

読書会「キリスト教と文学」 講師:柴崎 聰さん(詩人、日本聖書神学校講師)

日時:4月~2025年3月、第3火曜(8、12月休会)14:00~15:30

参加費:各回1,000円 会場:関東活動センター会議室(キリスト教会館1階16号)

■2024 年度 話し方ワークショップ

「さらに豊かな礼拝のために ことばを届けるトレーニング」

◆日本画家 佐々木真土さんより 屏風「飛梅」四曲一隻が寄贈されました。感謝申し上げます。

東西南北

◎日本基督教団出版局『信徒の友』2024年11月号に、関西セミナーハウスと、収蔵するアジアキリスト教美術作品が紹介されました。

財団本部 HP

関東活動センター HP



関西セミナーハウス HP

KSH 活動センター HP



公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー 代表理事 中村 信博

本部事務局 〒606-8134 京都市左京区一乗寺竹ノ内町 23 TEL 075-711-2147 FAX 075-701-5256

関東活動センター 〒169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18 日本キリスト教会館 1F TEL 03-3207-6198

E-mail :info@academy-tokyo.com 関西セミナーハウス/ 関西セミナーハウス活動センター 〒606-8134 京都市左京区一乗寺竹ノ内町 23 FAX 075-701-5256

関西セミナーハウス TEL 075-711-2115 E-mail :info@kansai-seminarhouse.com 関西セミナーハウス活動センター

TEL 075-711-2117 E-mail :office@academy-kansai.org

講師:友野富美子さん(日本キリスト教団深川教会牧師)

日時:5月~2025年3月、第3金曜(8月休会)18:00~19:30

参加費:各回1,500円 会場:日本キリスト教団東中野教会

■2024 年度 今日の課題 『LGBTQ+と教会 壁を造らない共同体をめざして』

講師:中村 吉基さん(宗教とLGBTネットワーク代表) 日時:6月~12月、第2火曜(8月休会)15:00~16:30

参加費:各回2,000円 会場:関東活動センター会議室(キリスト教会館1階16号)

■2024 年度 宗教対話 II (共催:柏木義円研究会)

「柏木義円公開講演会」 講師:村松 晋さん(聖学院大学教授)

日時:11月30日(土)【日程変更】15:00~16:30

参加費:2,000円 方法:Zoomによるオンライン開催

■2024 年度 神学生交流プログラム 講師:才藤千津子さん(西南学院大学神学部学部長)

校長:神田健次さん 日時:2025年3月11日(火)~13日(木)

会場:西南学院大学と Zoom 併用 ◆関西セミナーハウス活動センター

■2024 年度 修学院フォーラム「いのち」第1回「咸錫憲(ハム・ソクホン)のシアル(民)思想が問いかける非暴力平和運動」

※延期後新日程 シリーズ「戦争と平和」 講師:朴 賢淑(パク・ヒヨンス)さん(大阪

女学院大学・短期大学准教授) 日時:12月7日(土)13:30~16:00 第3回「聖書をエコロジーの視点で読む フォローアップ」(仮)

講師:大澤 香さん(神戸女学院大学 文学部総合文化学科准教授)

日時:2025年1月11日(土)13:30~16:00 第4回「歴史を変えた非暴力主義 一再洗礼派からキング牧師まで」

講師:踊 共二さん(武蔵大学教授) 日時:2025年1月25日(土)13:30~16:00

■2024 年度 修学院フォーラム「社会」第5回「ケイト・ラワースが提唱している『ドーナツ経済学が世界を救う』が、日本でどのように実践されているのか」(仮)

講師:広井 良典さん(京都大学人と社会の未来研究院教授)

日時:2025年2月15日(土)13:30~16:00 参加費:2,000円 学生500円

方法:会場関西セミナーハウスとZoom併用

■2024 年度 開発教育セミナー[対面開催] 第5回「地球と食の未来を考える Part 2 ~おにぎりとNISAから考える経済『金融化』のカラクリ~」

講師:平賀 緑さん(京都橘大学経済学部准教授)

日時:11月30日(土)16:00~12月1日(日)12:00

第6回「植民地支配責任」を考える ~朝鮮学校の歴史と現状を学ぶことから

講師:板垣 竜太さん(同志社大学 社会学部教授)

日時:12月21日(土)16:00~22日(日)12:00

参加費:12,000円(泊食代、宿泊税込) 会場:関西セミナーハウス

賛助会費・寄付金報告(2)

2024年7月1日~9月30日 (順不同・敬称略)

◆関西セミナーハウス 寄付

諫早 道子 牛尾 宣夫 林 宗一郎 株式会社田中工務店 塚本 茂 全国本田労働組合連合会 辻 紀子 浅沼 弘一 中村泰洋園 株式会社ワンアップ・ジョブ

株式会社新経営サービス 延原 正海 和田 喜彦 今若 京子 岩崎 順子 森口 克洋 神保 正男 ダイキン工業労働組合 株式会社藤木工務店京都支店 竹内 勲

竹中 百合子 中井 博雅 福中 康博 藤田 美和子 株式会社三原工務店 代表取締役 北迫義人 水谷 敬子 小久保玲子 京都桃山アシュラム 奥田 正義

◆関西セミナーハウス活動センター

賛助会費 水戸 潔 岩坂 二規・泰子 川北 かおり 丸山 まり子 間瀬 啓允 林 律 佐々木 紘児 松田 光代 上條 美代子 喜多村 やよい

梅山 猛 徳丸 延子 宇野 稔 吉中 尚子 関西青年アシュラム 都木 かおり 伊藤 威知郎

寄付

武山 泰子 京都みぎわキリスト教会 水戸 潔 喜多村 やよい 徳丸 延子 後宮 嗣 桜井 希 Christian M. Hermansen 柳井 一朗 吉中 尚子 村上 みか 滝澤 佐紀子

以上、感謝を持って ご報告申し上げます。